

政経・法・教育学部学生読書室のWINE参入と利用の共通化 - 箇所からの報告 -

・政治経済学部学生読書室 藤井 良子

2002年4月8日朝、担当者によるWINEの立ち上げ操作が行われ、まもなく最初の利用者があった。カウンター内には多少の緊張が流れ、スムーズに貸出手続が終了すると安堵の空気が流れた。政治経済学部学生読書室の新世紀への幕開けを思うと共に昨年6月からWINEシステム参入に向け準備を進めてきた遡及入力やバーコードの貼付作業などが脳裏に浮かんできた。図書のデータをこれまでの箇所システムから全学的図書館システムのWINEに統一できるようになったことは利用者にとっても係にとっても最大のメリットである。

スタートから2ヶ月、WINE参入による利用者数は飛躍的に増えたとはまだ感じないが、他学部学生の利用や問合せが増加傾向にあり、特に予約や貸出延長手続に対する質問が多く見受けられる。また、6月3日からは全学対象に貸出が開始されるので借用希望者の増加が期待される。少なくとも情報公開が叫ばれる昨今、学部が独自に管理してきた蔵書を全学の学生やOB等々が気軽に検索できるWINEへの参入は、まさにエポックメイキングなことであると思う。

課題としては、共通利用の規則が設定されているが、政治経済学部学生読書室が当学部学生に対してのみ行っているサービスもあり、今後の検討材料となっている。不慣れなため戸惑うこともあるが、他学部学生読書室や各図書館の協力を得て利用者により良い学生読書室の環境を提供できるようスタッフ一同努力して行きたいと考えている。

・法学部学生読書室 丸山 里恵

法学部学生読書室は、2001年9月よりWINEシステムへ移行し、間もなく10ヶ月が経とうとしています。担当スタッフとしてまず感じたことは、法学部生だけでなく他学部生の利用者数、貸出冊数の増加です。4学部（政・法・教・社）共同利用になってからは、文学部や人間科学部等の学生からの貸出希望も多く、6月3日からの全学生への貸出開始はスタッフ側としても待ち望んでいたことでした。また以前は、法学部独自の検索シス

テムとWINEシステムという2種類であった為、WINEのみの検索で全学の資料を探せることや自宅からの検索が可能となったことに満足の声が多数寄せられました。更に、今までは他学読の所蔵図書は検索出来なかった訳ですが、他学部の収書状況が一目で分かる上に、貸出状況も知ることが出来、利用者にその場での確かなアドバイスをすることも可能となりました。

また当読書室は、主に法律に関する図書を所蔵しており、法学部生の学習に役立つように、やさしい入門書からやや高度な学術書まで幅広く収集するよう努めています。WINE移行に伴い、他図書館との分担収集をいっそう進め、今後も法律系図書室としてさらなる飛躍をしていきたいと考えておりますので、どうぞお気軽にご利用下さい。

・教育学部学生読書室 相津 ヤスコ

教育学部学生読書室は、2001年9月からWINEに参入しました。利用者からの反応は、「学読へ足を運ばなくても蔵書検索や予約・延長ができる」「他の学読・図書館の所蔵状況も一度に知ることができる」「中央図書館などと同じシステムなので使いやすい」など好評です。目録作成は、これまで「丸善ちよいす君」等のデータを加工して利用してきましたが、今はWINEの書誌に所蔵データを付加するだけとなり、作業が簡略化されました。しかし、WINEの操作権限に制約があり、バックデータ返却ができない、利用者データを独自に作成できないなど、若干の不便を感じることもありますが、他の学読との協力体制のもと、順調に運営しています。社会科学部とは、同じ14号館ということで、既に1998年9月から相互貸出を行っていましたが、WINE参入後は、他学部学生の入館者数も増加しました。貸出冊数は、蔵書構成の都合上（教育学をはじめ、文学、語学、数学や理科系科目の図書が中心となっている）、社会科学系学部の学読どうしほどの伸びはないようですが、6月からの全学開放後は、これまで貸出希望が寄せられていた理工学部や文学部学生等への貸出冊数の増加が見込まれています。